



京都教区時報



京都教区広報委員会
 (編集長 村上透磨)
 京都教区本部事務局
 京都市中京区
 河原町通三条上る
 TEL 075-211-3025
 FAX 075-211-3041
 honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

4 頁 2018年 教会学校研修会

5 頁～6 頁 2018年 コリアン ユース デイ (KYD)

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
 ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さ
 んまでお申込みください。
 TEL・FAX 079-431-8601

2018年 司教年頭書簡 「エコロジカルな回心」

回勅『ラウダート・シ』の呼びかけ

「水を飲ませてください」

(ヨハネ4・7)

「この人たちに食べさせるには、

どこでパンを買えばよいだろうか」

(ヨハネ6・5)

今回は「水」と「パン」について考えてみたいと思います。

この世界的な規模の問題は、今は説明するまでもなく、目前に投げかけられた、とても大きな課題です。今、私たちは、一方では水の被害に悩まされ、他方では飢餓の苦しみに悲鳴をあげています。それは、人間だけではなく、全被造物のうめきでもあります。多く



イエスとサマリアの女
 (ヨハネ4・7)



五千人に食べ物を与える
 (ヨハネ6・5)

の人々は、それを不気味に感じているかも知れません。暴れ狂う自然は、私たちを環境問題に関心を持たざるを得なくしています。今、各教会で「ラウダート・シ」の勉強会がなされていると聞きます。その勉強会は、不安に落とし入れられるより、福音的希望を生み出すものでなければなりません。さて、何かを書き始めようとすると、とたんに戸惑ってしまいます。手につかないのです。それは、何から「手」をつければよいのか分からないほど、大きいからなのですが、今回は「水」と「パン」の観点から考えてみようかと思えます。「水」と「パン」の問題もとても大きくて、水の問題だけでも一年間の講座を計画することも出来ましょ





う。それはさておき、回勅は第一章の「汚染と気候変動」(20〜26)、続いて「水問題」(27〜31)を特別に取り上げています。「水問題」については、その箇所だけでは

なく、その前後、少なくとも一章全体をまとめて取り上げるべきだし、また他の章も全体的なつながりのもとに、学ばねばならないと思います。

信仰者として私たちは、聖書はどのように語っているのかを少し探してみたいと思います。先ず、心に浮かぶのは「荒野の試み」(ルカ4 マタイ4)についての箇所です。ここではマタイを取り上げます。しかし、この箇所は、2017年11月号でも、高山右近の霊性を語るのにも取り上げましたが、今回は環境問題として、考えてみたいと思います。

要点だけで言えばこうです。
「荒野野」を「自然」と見る。

この荒野野の誘惑の背後には、エジプト脱出における荒野野の旅の体験がある。

ここで、問題になっている問いは三つです。

①「パンの問題」。神はこれに「マナ」と「うずら」を降らせて応える(出エジプト16)。

イエスは「人はパンだけではなく、神の言葉によって生きる」と答える。

②「水の問題」。民は水がなくなったのでモーセを責める。荒野野での最初の民の不平。神は「岩」から「水」を与えて応える(出エジプト17)。

イエスは「神を試みるな、思い通りに神を動かそうとしてはならない」と答える。

③「偶像崇拜の問題」。誰が主なる神か。金の子牛か、それともヤーヴェか。私は、あなた方をエジプトから導きだした「唯一の神ヤーヴェ」と応える。イエスは「唯一の神のみ礼拝せよ」と



マナの収穫



岩から水を出すモーセ

答える。

十字架上の死をもって果たす。その言葉は「父よあなたに委ねます」「父よ全て成し遂げました」とある。こうして「主は、世に勝ったのだ」と言う。即ちキリストはご自分が全てのもの主であり、神であると宣言された。一方、百人隊長は「この方こそ神の子だ」と告白する。弟子たちは、復活された方を見て「我が神、我が神よ」と答える。

こうして、私は荒野野の誘惑は、三つの回答を通して、エコロジー問題に根本的な解答を示していると思います。「復活し栄光に入られたキリストとの対話(出会い)」という視点をエコロジー問題に加

えるべきだと思えます。ちなみに「水」と「パン」のテーマは、ヨハネ福音書にとって重要なテーマであることに気づかされます。

「水」については、

- ・ サマリアの女との出会い(ヨハネ4)。
- ・ 生きた水の流れ(ヨハネ7・37)「水は聖霊を指す」。
- ・ とても象徴的、印象的なのは、「洗足の水」(ヨハネ13)。

・ 脇腹から流れ出た血と水(ヨハネ19・31〜37)。

他に、カナの奇跡(ヨハネ2・1〜11)、ベトザタの池での盲人のいやし(ヨハネ5・1〜12)、水上歩行(ヨハネ6・16〜21)、不思議な漁(ヨハネ21・1〜14)などがある。

そして、洗礼の象徴としての水。

「パン」については、ヨハネ6章。

この章全体は、聖体の神学と言える「みことばのパン」「聖体のパン」「天からのパン(マナ)」など。キリストがパンをお与えになるのは、その憐れみによるのだということも知っておきたい。マタイやマルコのパンの奇跡は、主は「深く憐れんで」与えたとある(マルコ6・34 8・3 マタイ14・14 ルカ15・20)。飢えている人、渴いている人、貧



カ11・2〜4)。

環境の悪化で、土地を奪われパンを奪われて一番苦しめられるのは、貧しい人々(これは、説明するまでもない)だから、回勅も「貧しい人」を大切にすることを環境問題の重要な課題としてい

しい人に、主はパンをお与えくださる(ルカ6・21 マタイ25・31〜46)。私たち全てに「今日のパンを下さい」と祈らせる「主の祈り」(マタイ6・9〜15 ル

る。
飢え渴いているのは、人間だけではなく、動物も植物も大地も自然も飢え渴いている。

水は、また、これらを破壊し飲み尽くす、大惨事。では、誰を訴えるのか、神を、いや違う。むしろ私たち一人ひとりの「かいしん(回心・改心・改新・悔心……)」がもとめられる。人間の「貪欲」から、「おごり」から、「エゴイズム」から、私たちが「造り上げた奇妙な怪物(偶像)」から……、解放されなければ。

私たちは解放され、神からの自然への視点を通して見直し、生き方、対応の仕方の求道。つまり「かいしん」が求められている。

(村上透磨)



主の祈り



西日本大被害

教会学校研修会



堅信の秘跡

8月25日(土)河原町教会ヴィリオンホールにおいて、京都教区教会学校研修会が行われ、17小教区から教会学校リーダー27名が参加しました。テーマは「堅信の秘跡」で、当委員会担当司祭の小立花忠師が、講師を務めました。このテーマは、昨年教区の教会学校担当者対象に行った、「小学生の信仰教育についてのアンケート」のなかの、「教会学校研修会で取り上げてほしいテーマはなんですか」という問いの回答のなかで、特に多かったテーマです。



研修会の冒頭、大塚司教は、司教と堅信の秘跡との関係や、幼児洗礼の信者にとって、堅信の秘跡がど

のような意味を持つのかについて述べられました。堅信は、子どもが、大人になっていく時の信仰感覚を養成するという司牧的な目的がある。大人の信仰にステップしていく大事なときに、部活や勉強で教会離れが進む中学生に、信仰とはどういう意味があるのか、信仰を持って生きるとはどういうことを考えてもらうことが大切。堅信を受ける中学生たちに、信仰を生活の中で結びつけるよう、そして、聖霊のはたらきによって、キリスト者として社会に派遣されていく力をもらうことを伝えてほしいと言われました。



講師の小立花師は、聖霊と堅信の秘跡について、聖書からと教理から説明されました。

「いただくこと」など、聖霊とはなにかを考えました。

教理では、七つの秘跡全般について学び、堅信の秘跡がどのようなものであり、教会は堅信の秘跡についてどのような考えを持っているのかについて、また、聖霊のはたらきについて具体的に学びました。そして、今年5月から6月にかけて行われた、教皇フランシスコの連続講話「堅信の秘跡」を紹介されました。さらに、「カトリック教会のカテキズム」における、堅信の秘跡についての解説を読み、入信の秘跡の一つである堅信についての理解を深め、堅信式の典礼についても学びました。

最後に、幼児洗礼の子どもたちの、堅信準備に使用するテキストの紹介があり、小グループに分かれての分かち合いで、教会学校の現状や秘跡教育について意見交換を行いました。

教会学校のリーダーが、秘跡について正しい理解と知識を持つことは、必要不可欠なことです。今回の研修では、「堅信の秘跡」について体系的・具体的に学ぶことができ、また、中学生の信仰教育の大切さにも気づかされました。

信仰教育委員会

コリアン ユース デイ (KYD)

神に感謝

奈良教会 高校2年 榎並 加称

私達は8月9日～11日に濟州島に行つて、11日～16日はソウルでKYD (コリアン ユース デイ) に参加してきました。

濟州島では、城山日出峰やイシドル牧場に行き4・3事件の事について学びました。

濟州での2日目の夜はソンサンポ教会の信者さんが私達のために、夜ご飯を用意してくださいました。そのほかにもたくさんの方からご厚意をいただきました。



韓国に到着して少し不安もあった私達を、心から歓迎してくださいました事がすごく嬉しかったです、とても安心できました。

KYDの日程ではミサに参加する機会がたくさんありました。言葉はわからなくてもここに居る人達は「繋がっている」と強く感じることができました。

また、ホームステイの家族の方はとても優しく、私にたくさん話しかけてくださいました。日本語を一生懸命調べて話してもらった時は嬉しかったと同時にとても感動しました。

一週間韓国で過ごした中で、嬉しかった事、感動した事とは反対に、後悔を感じた事もあります。

それは、もっと韓国の文化について調べて行けばよかった、韓国語をもっと勉強しておけばよかった、という事です。

私は学校で韓国語を習っている事もあり、少しは韓国語で話す事ができました。でも、もっとたくさん韓国語を話せたら、今話す事が出来なかった方とも仲を深める事が出来たのかなと思いました。

この後悔を忘れず、これからもっともっと頑張つて韓国語の勉強をたくさんして、京都教区の姉妹教区である濟州教区との交流の架け橋となれるように頑張

りたいと思いました。

私達にこのような素晴らしい機会を与えてくださった神様に感謝します。

この経験を無駄にしないように、これからの人生を歩んでいきたいと思いません。

印象的な一週間

唐崎教会 高校2年 永井 真紀

KYDに参加したことは私にとってとても良い経験になりました。濟州教区の司教様のお話しを聞いたり、4・3事件について学んだり、また、ソウルを歩き回つて韓国の文化や思想、習慣に触れたことは有意義な時間となりました。



ホームステイ

は最初何とも言えない雰囲気ではじめたのですが、ホームメイトのお姉さんとは仲良くなれませんでしたし、最終的には楽しかったと思います。ただ、ホストファ

ミリーとは言葉の壁があったので、思っていたよりも打ち解けられなかったのが残念です。

濟州教区の人達とはとても仲良く出来ました。彼らが日本語で話してくれた時は非常に嬉しかったです。「KYDのために日本語を勉強したんだよ」と言ってくれる人もいました。私も韓国語を勉強して行けばよかったです、これを聞いて思いました。また韓国に行く機会があればきちんと勉強して行こうと思います。

お兄さん、お姉さん方はみんな優しくて愉快な人達でした。電車やバスでの移動も退屈には思いませんでした。むしろ面白い道中でした。また、細やかな心配りがあり、助かったので感謝しかありません。

この一週間で私はたくさんものももらいました。優しさ、楽しさ、喜びに感謝、物理的なものではロザリオをいただきました。はじめは緊張であまり余裕はありませんでしたが、最終的には日本に帰りたくないと思うほど、印象深い一週間でした。今回体験したことを忘れずにこれからの毎日を過ごしていこうと思います。

繋がっている

彦根教会 高校2年 鎌倉 美咲希



私は8月9日から16日まで高校生会で韓国に行ってきました。9日には濟州教区の司教様に挨拶をしに行き、キム神父様の出身教会にも行きました。司教様からは濟州で起こった4・3事件のことを少し聞いたりしました。夜には夜市に行って美味しいものを食べたり飲んだりしました。10日には司教様が話してくださいました4・3事件の資料館に行きました。4・3事件とは1948年4月3日に濟州島で起こった島民虐殺事件のことです。老若男女関係なくいろんな人が亡くなった事件です。司教様の話を聞くまでそんな事件があったなんて知らなかったの

で、すごく胸が痛みました。そしてもう二度とそんなことが起こらないようにみんなでお祈りをして資料館を出ました。その日の夜にはパー

ベキューをして濟州の新鮮な魚を食べたり、濟州の有名なデコポンのジュースを飲んだりしてその日を終えました。

11日からはソウルに行きました。まず、濟州教区の方たちと合流をしてソチョドン教会でふれあったりご飯を食べたりして、それぞれのホームステイ先のお家に向かいました。日本人がいないホームステイで、言葉も通じないしすごく不安でしたが、ホームステイが終わる日には、寂しいと思うくらいすごく楽しく優しい方たちでした。12日にはKYDの開幕ミサがあり、その後にソウル教区の方たちと班になって聖地巡礼をしたり、13日に修道会で典礼体験をしたり、明洞大聖堂でフェスティバルに参加したり、14日に1日中カトリック信者である韓国のアーティストたちのライブに参加しました。15日には閉幕ミサに参加して韓国のみならずお別れをしました。最初はみんなよそよそしくて、自分の友達とばかり話していたのに、この日には私たちは韓国語、濟州の方たちは日本語でお別れをしているのが私から見ても感動的でした。全然違う言葉を話していても、カトリック信者である限り私たちは繋がっているのだと思うことが出来ました。ありがとうございました！

11月のお知らせ

教 区

聖書委員会 / Tel.075(211)3484 ㊦㊧
聖書講座「回心 一観想・祈り・詩うー」
 日 時：7日㊦ 19:00 8日㊦ 10:30
 テーマ：主は死と世に打ち勝ち私たちの間に生きておられる(復活の神秘)
 講 師：奥村 豊師
 日 時：21日㊦ 19:00 22日㊦ 10:30
 テーマ：私は世の終わりまであなたがたと共にいる
 (三位一体的 秘跡的 神秘体的一致)
 講 師：鈴木 信一師(パウロ会)
 会 場：河原町教会 ヴィリオンホール
よく分かる聖書の学び / Tel.075(211)3025
 日 時：14日㊦ 10:30
 講 師：北村 善朗師 / 参加費：300円
 会 場：河原町教会 ヴィリオンホール
福音宣教企画室 / Tel.075(229)6800
病者・高齢者奉仕講座
第2回「いのちに寄り添い、老いに寄り添うとは…」
 日 時：15日㊦ 13:30~16:00
 講 師：平岡 毅氏(聖ヨゼフホーム施設長) 一場 修師(マリスト会)
 会 場：河原町教会 ヴィリオンホール
 参加費：300円(申込不要)
いのち・平和・環境委員会
京都教区「いのち・平和・環境の日」の集い
 日 時：17日㊦ 13:00~17:00
 (ミサ 16:00 司式 大塚司教)
 場 所：河原町教会
 テーマ：お互いの活動を知り合おう
 分科会：①いのち(A) ②いのち(B) ③平和 ④環境
 希望する分科会に参加してください。
 詳しくは、ブロック担当司祭・教会役員にお尋ねください。

ブロック

滋賀ブロック
第32回 びわこウォークソン
 日 時：23日㊦ 9:30~13:30
 受 付：9:30~10:30 草津教会
 ミ サ：10:00~10:30
 コース：ミサ後、草津教会から草津川跡地公園及び周りの歩行路を秋の草花を楽しみながら往復(約3.5km)、帰着後交流会
 寄付先：止揚学園、おおつ福祉会、びわこダルク

修 道 会

男子カルメル修道会(宇治修道院)
 Tel.0774(32)7016 Fax.(32)7457
生活の中での霊的同伴(九里 彰師)
 日 時：2日㊦ 20:00~3日㊦ 16:00
 参加費：6,000円
水曜黙想(九里 彰師)
 日 時：21日㊦ 10:00~16:00
 テーマ：永遠の命
 参加費：3,000円
カルメル青年の集い(中川 博道師)
 日 時：23日㊦ 10:00~16:30
 参加費：3,000円
一般のための黙想(中川 博道師)
 日 時：23日㊦ 17:00~25日㊦ 16:00
 テーマ：目覚めていなさい
 (一部参加も可能です。お問い合わせください。)

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団
 練 習：11日㊦ 14:00 / 24日㊦ 18:00 ミサ奉仕後
 カトリック会館6階
コーロ・チェレステ(女声コーラス)
 練 習：8日㊦ 10:00 / 22日㊦ 10:00
 29日㊦ 10:00 カトリック会館6階
聴覚障がい者の会(どなたでも参加可)
手話表現学習会(聖書と典礼)
 日 時：8日㊦ 13:00 カトリック会館6階
心のともしび 番組案内
 テレビ(衛星スカパー・ケーブル)スカイA
 毎週土曜日 朝7:45
 シリーズ「喜びと平和のうちに」
 出演は松村 信也師(イエズス会)
 ラジオ(KBS京都) ㊦~㊦ 朝5:55
 ㊦ 朝5:15
 11月のテーマ「子どもの祈り」
京都南部ウォークソン
 日 時：3日㊦ 10:00~14:30
 受 付：8:45~9:30 河原町教会
 コース：河原町教会から鴨川沿い往復
 寄付先(援助)：東日本大震災被災者への援助
 ムリンディ・ジャパン・ワンラブプロジェクトへの支援
 ご飯基金 バングラデシュ・ラルシュコミュニティへの支援

12月のお知らせ

京都キリシタン研究会
創立40周年記念行事
 日 時：9日㊦ 14:00
 プログラム(会場 カトリック会館6階)
 14:00 感謝ミサ(司式 小川 靖忠師)
 15:00 記念講演
 16:20 懇親会
 参加費：無料(懇親会は事前申込要)
 問合せ：090(2381)4630(古澤)

※ 2019年1月号の原稿締切り日は11月21日㊦です。

大塚司教の

11月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



- 1日Ⓢ 10:00 中央協 常任司教委員会
 3日Ⓢ 13:30 浦上信徒大和郡山流配150周年
 記念講演とミサ
 4日Ⓢ 14:00 衣笠墓苑 物故者追悼ミサ
 (衣笠教会)
 6日Ⓢ 10:30 広報委員会
 16:00 青少年委員会
 8日Ⓢ 14:00 福音宣教企画室
 10日Ⓢ 京都聖母女学院短期大学
 閉学感謝ミサ
 「YES 2018」(青年の集い)

- 11日Ⓢ 9:00 登美が丘教会創立50周年
 感謝ミサ
 13日Ⓢ-15日Ⓢ 第20回日韓司教交流会
 (日本)
 17日Ⓢ 13:30 京都教区「いのち・平和・
 環境委員会の日」の集い
 18日Ⓢ 11:00 宇治教会ミサ
 19日Ⓢ 14:00 司教顧問会
 17:00 教区司祭追悼ミサ
 (河原町教会)
 23日Ⓢ-24日Ⓢ 第40回 日本カトリック正義と
 平和協議会 全国集会名古屋大会
 28日Ⓢ 10:30 司祭・司牧者集会
 (河原町カトリック会館)
 15:00 司祭評議会
 30日Ⓢ 14:00 京都済州姉妹教区交流委員会

2018年 中学生広島平和巡礼

河原町教会 平野 慶輝

私たちは8月5日～7日に京都教区と済州教区合わせて70名で広島平和巡礼に行ってきました。1日目は朴南珠さんの被爆者証言を聞き、平和行進に参加し、平和祈願ミサでは全国から集まった方々と共に祈りを捧げました。2日目は、原爆が投下された8時15分に相生橋で黙祷を捧げることから始まりました。そして慰霊碑を巡りながら祈り、広島平和記念資料館で原爆について学びました。今年のテーマは「歴史の中で今日を生きる」でした。被爆者証言を聞いたり資料館で見たりして得た学びを元に、今私たちはどう生きるべきなのかという分かち合いを行いました。最後には大塚司教様に講

話頂き、私たちリーダーも考えさせられる時間となりました。3日目に感謝のミサを捧げ、プログラムは終了となりました。

ハードスケジュールに加えて、今年は特に厳しいと言われる暑さの中でしたので少し不安もありましたが、無事に全員揃って帰ってこれることができました。末筆ではありますが、報告も兼ねて感謝の気持ちを伝えたいと思います。



〔青年センターHP〕 携帯からでもご覧いただけます。 <http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/>

青年センターあんでな